

幼 兒 教 育

第 二 卷 第 二 十 二 號



日 本 幼 稚 園 協 會

目次

巻頭

社會教育と子供	大迫元繁
晝間託児所の諸問題	朝原梅一
冬の小児の保健	太田孝之
保姆と園児との接觸と幼児の興味	馬場定一
おはなし二つ	新庄よし子
幼稚園のゲーム	土川五郎
個人性格と社會性格	倉橋惣三
幼稚園要目 (二)	

幼 兒 教 育

第 二 十 三 卷 第 二 號

新 鮮

新鮮は子どもの生命である。山から掘りたての花崗岩の、その割れ目に見える光澤、枝からちぎりとつたまゝのオレンヂの、その皮の裂け目にほとほとほじる香氣。私はひとり／＼の子どもに、この新鮮を感じる。

味づけても、色づけても、形づけても、この新鮮は人の手につくれない。つくろふとすれば光澤がくもる。いちくりまわして居ると香氣がぬける。新鮮は自然ばかりが與へるものである。

塗り色の綾をよるこび、配列の整をたのしみ、つくらんことを願ひ、こしらへんことをつとめて、自然の新鮮を忘れ棄てんとするは、人の過ちにして、愚かにして、また罪である。悲しいかな、此の過ちと、愚かと、罪とが、教育の名に於て常に行はるゝ。パレットを手に、森の前に、自然の色は描き得ても、自然の新鮮のあらはし難きに慍む畫家がある。絃を脇に、海に立ちて、自然の音は模し得ても、自然の新鮮のあらはし難きに悶ゆる樂聖がある。しかも、あの彈む足、あの溢るゝ笑ひ、輝く目、響く言葉、その閃々たる自然の裡に交りて、子どもの新鮮に感じようともしない、鈍い、よどんだ心がある。恥かしいことである。(倉橋生)

社會教育と子供

東京市社會局教育課長 大 迫 元 繁

學校教育家家庭教育社會教育と云ふと、學校である教育と家庭である教育と學校でも家庭でもない處即ち社會といふ所とする教育とかう三種に分かれる様であるがさうすると社會といふものはごく小さい局部の又は特種の感があるが私の申すのはさういふ狹意の社會ではない。人々が生活してゐる處、その中には學校もあり家庭もあり其他あらゆるものゝ含まれてゐる人の生活即社會、であつて國家即社會、全般的なものである。社會といふものをかういふ立場に置けば社會教育といふものゝ中には學校教育も家庭教育もその他のものも總て含まれてしまふ。或は學校教育、家庭教育、二者に屬さぬ中間にある團體たとへば少年團、青年團、處女會等いふものを指して社會教育と呼ぶ事もあらふがそれは狹意なのであつて、こゝに私の申すのはもつと廣意義のものである。扱いつも感ずる事であるが我國の社會にはも少し、人間といふ、言ひかへれば人格の、觀念が明か

にせられなければならない。それは社會教育の一つの缺陷とも見られる。學校に行けば其處には教師と云ふ階級があり生徒といふ階級があつて各々がすべき事を守つて行き家庭には子と親があつて子が親に従ふべくせられてあるが教師も貴い人間なら生徒も同じく貴い人間であり親も一個の人格なら子も一個の人格であるといふ心持がない。我國の社會には階級の型は判然してゐるが人間の影はうすい人間の影即人格そのものが重んじられてゐない。大將を望み社長をのぞむ高位高官を得んとて努力はするが自ら一個の人格としての完成の爲には留意する事が少ない。

といふのは我が國では目的と手段とをあまり判然して考へすぎることではあるまいか。世間の人は云ふ「子供は成人になるまでの子供」即ち成人といふ目的の手段であつて子供時代そのものは目的の爲に犠牲にされてゐる。それなら若しかりに子供が成人に

はならず死んだらそれまでの生といふものは無意味になる。私は現在主義といふ事を云ふ。それは子供は子供の爲の子供であつて成人になる爲の子供ではない子供それ自身が價值あるものとするのである。

二十歳の子を失た人がこんな事を云た「皆さんがこれまでに育てたものをこれから云ふ處で實に惜しい事をしたといはれる、しかしこれからといはれるとそれならこれまで二十年の月日は何の爲であつたらう」と。しかし私は思ふ現在は手段でもなく犠牲でもない現在そのものが貴いのである、人々が青年に向てよく云ふ言葉に『將來の爲だから今はがまんしろ』といふがそれでは現在は價值がない事になる。もし彼等の將來がないとすれば彼等の生はつまらないものである。丁稚に番頭になる爲に店主になる爲にはなく丁稚そのものが意義ある事である。

日本の社會は子供を一人前に見てゐないが余が米國に居た時丁度排日論の盛な當時で或家を訪問した時たま／＼それが話頭にのぼつた成人の會話や説をぢつと傍で聞いてゐた十歳ばかりの子供は最後に自分の論をのべた父母はじめ周圍の成人は誰れもその

子供の語るのを成人の語るのと同様に謹聽してゐた。「子供のくせに口を出す」と難じたり「子供のくせになまいきな」と云ふ輕蔑の態度は周圍の成人の間に少しもみられなかつた。弱者として保護することそれは身上勿論大切であるが更に子供の子供として的人格を認めると云ふ事が我が國の社會に廣く理解され實行せられる事を切望する。

今一つには子供の教育を考へると同時に親自ら、教師自ら、社會の人自らが教育すべきである。子供をどこの學校に入れようかばかり考へて親自ら人間としての完成の爲に自己を教育することを忘れてゐる家庭ではよく例のある事で母親が子供から感心されないような事を自ら仕て居ながら子供が何か邪魔をしたりよくない事をした時に「お父さんに叱られるよ」と云ふ、自分を問題の外に置いて子供だけを教育しようとする。それでは教育に力がない従て効果が無い。階級をのぼるのに一段目はどうでもいゝ、さにかくお前は十段目へお出といふのでは曲藝である不確實な歩みである、しかしこれまでの我が國の教育なり生活なりは立身出世が目標であつたから輪廓のみを重要視して内容をおろそかにする傾があつ

た。しかし輪廓の大小は問はず人間としての義務、人間としての正しい道を踏めばそれが意義ある生活であり人格としての充實である以上今はしかたがない將來偉くなれと云ふより今すべき事を盡せばそれが正しき生活即意義ある人生で更に進むべき道への過ぎなくてはならぬ大切な基礎である事を説くべきである。今の世では總ての人が職業を持たなければならぬのにともすれば多くの人が自分の職業を輕んじて他人の職業を羨む傾があるそれは輪廓の大を望むからではあるまいか。人生の目標を生活の内容充實におくならば一労働者も高官の人も或は一商人も千差萬別の各職業者が皆自己の義務遂行と正しき生活に満足して暮すべき筈である。眞の生活は輪廓の大にあらずして内容の充實であること云ふ事を家庭でも學校でも其他、一般の社會教育によつて知らしめたい。

親に孝に君に忠にと説かれた道徳は縦であつた。縦の道徳勿論大切であるが横の道徳即ち隣人の愛の道徳、彼も天下の一人であれば我も同じく天下の一人、それは個人にあらず國家人にあらず共に住み合はせた隣りあひの人間同志がもつべき大切なもので

ある。社會生活といふ言葉があれば社會人といふ事も云へよう。眞の社會人それは生活の内容充實に満足をして隣人の愛に生きる人間である。

子供は社會人である故に道の左側を歩くことを教へらるべきでそれは人に禮をする様に云ひきかすよりも大切である。着てゐる着物はいてゐる足袋帯から帽子すべてが材料から自分の身につくまでには多くの人の勞力を經てゐるといふ事、社會の恩とも云ふべき是等のたくさんの事がらは廣き意味の社會教育として幼ない人達にも知らしむべき事と思ふ。道であるく時に紙屑を捨てゝはならぬとか電車や汽車に乗る時の注意などは社會に生活する人として誰もが知らなければ又守らなければならぬ事であつて先にも申した少年團や青年團が、斯うした社會生活の教育の爲に盡力するのはまことによい事と思ふ。

一人々々の人格を重んじ生活の内容充實を目標として隣人の愛に生きる社會人がその生活の道程に顧慮すべき事は健康である。「健康第一」の標語は自らの爲に同時に隣り人の爲に社會生活を營む誰もが重んずべきである。公衆衛生は公衆道徳と共に幼き社會人の胸にもかみくだいて含めらるべき事からである。

最後に云ふ。社會人の教育は社會自らがなすべきである。(在文責記者)

晝間託兒所の諸問題

東京府囑託 朝 原 梅 一

(一)

現實のものがあるがまゝに見て居れば、何等の疑問も起らないが、多くあるものをならべて、縦から見たり、横から見たり、その起源を考へたり、變遷を辿つたりすると色々な問題が起つて來る。

我が東京府下には大正十年末に晝間託兒所が三十六團隊あつた、其内十二は會社工場の附屬であつて、二十四が一般的の託兒所である、尤も其内の三つは特殊小學校の附屬であつて、學校に來る兒童の弟妹を預るのであつて、他からは預らない、であるから誰れからでも預ぶかるのは二十一團體である。

(二)

抑、託兒所本來の目的は幼兒を教育すること云ふよりは衛生的方面を考へて家庭の邪魔者となる幼兒を預つてその保育の手傳をなし、母親の仕事の能率を擧げ收入を増し更に幼兒を通じて家庭の向上を計る

にあるのである、一體家庭の邪魔(足手まとい)になる子供はどんな年齢であるかと云ふと一歳から三四歳までの幼兒であらふ。

それならば現在の託兒所の幼兒の年齢はどうかと云ふと、十年末現在幼兒總數二千四百五十八名中一歳の幼兒百六十九名で總數の百分率から見ると(六・七〇%)。

二歳二百四名で(八・二九%)。

三歳百九十一名(七・六八%)。

四歳 三百六名(一一・三九%)。

五歳 四百五十四名(一一・四六%)。

六歳 六百十四名(二五・三九%)。

七歳 四百六十三名(一一・八一%)。

八歳は六十二名(二・五二%)。

等で、一歳乃至三歳の幼兒は五百六十二名で總數の(二二・八四%)となり、百名中約二十三名弱の幼兒が居る譯であつて、四歳は百人中十二名、五歳乃至

八歳は百人中六十六名の多數を占むることになる。

(三)

こう云ふ状態から考へると現在の託兒所の幼兒は幼稚園兒に該當する年齢の兒童が大部分を占めて居る、これでは労働者の家庭に於て足手まどひとなる子供を預つてその家庭の主婦の働きを可能にしその収入の増加を計るなどと云ふことは有名無實なことである、元來五歳乃至八歳の幼兒はやむを得ない時には隣にあづけることも出来る、それだに、一歳乃至三歳の幼兒はそうは行かぬ、であるから數の上から見た託兒所の内容は月謝の安ひ幼稚園に過ぎない様になつて、その使命の大半を失ふて居るのではあるまいか、こゝには大きな問題が存在して居るのである。

何故に年の多い子供を多く收容して年の少なる幼兒を斯様に少ししか收容しないかと云ふに、それは恐らくは經費の問題から來るのであらふ、五歳乃至八歳の子供は一人の保母が居れば五十名位は平氣である、幼稚園令に一人の保母の受持は四十名以下とあるが少し無理をすれば十名位はどうでもなる。所

が一歳乃至三歳の幼兒は一名の保母で五六名でも骨が折れる、そうなると現在の様に一ヶ所平均七十七名の幼兒を收容する託兒所には十名の保母を要することになる、けれども實際は一ヶ所の平均保母數は三・一人(三人強)であるから約三分一の保母にしか當らぬ、こうして保母の手不足である所から一歳乃至三歳の幼兒を收容するよりも手のかゝらない子供を多く收容する様になるのは人情の當然である。

(四)

だから託兒所に年少の幼兒を多く收容するためには保母の數を増さねばならぬ、保母の數を増すには經常費を増さねばならぬことになる、茲にも託兒所の經營者が徹底的にその使命を果すか、申譯にその事業を經營するかとの二つの分れ道がある、大に考慮を要する問題である。

それならばこの託兒所の經常費の出所はどうして出來て居るか云ふと、以上述べた、三十六團體中二十四が私立であつて他の十二は會社工場の附屬であるから會社の重役諸君の舌の働き様と頭の振り様ではどうにでもなるが存外こうした方面には注意が

足りない、それから二十四團體の私設事業の經費は、慈善家の寄附金、維持會員の會費、官公署の補助金、保育料等が主であつて以外には資金の出道が殆どない、若しも多額の寄附金を得やうとすれば募集專任の事務員を要する、こうなるごその事務員には多額の俸給を出さねばならぬ、下手をやると資がとれなくなる、官公署の補助金もそう多額を得ることとは困難である、そうなればこゝに多少考へられるのは保育料の値上げ問題である。

十年末調べの保育料は。

月納金壹圓(間食費を含む)が二ヶ所。

九拾錢(間食費を含む)が一ヶ所。

六拾錢(間食費を含まず)が一ヶ所。

五拾錢(間食費を含む)が二ヶ所。

以上が月額であつて、日納め。

金五錢(間食費を含む)一ヶ所。

四錢(二錢間食費を含む)一ヶ所。

三錢(間食費を含む)一ヶ所。

二錢(間食費を含む)が五ヶ所。

二錢(間食費を含み、他に壹錢の積立金を要す)が一ヶ所。

參錢(内間食費壹錢五厘)が一ヶ所。

金參錢(内貳錢間食費)一ヶ所。

壹錢(間食費其他に一日壹錢以上隨意貯金を要す)二ヶ所。

二ヶ所。

壹錢(間食費)一ヶ所。

無料にして間食を與ふるもの六ヶ所。

計二十四ヶ所である。

(五)

斯様に保育料の上から見ると大部分は有料とは云はれない位である、それなのに一ヶ所の平均經費は、年額貳千八百五十一圓〇八錢であつて、保姆一人當りの月額は七十九圓十九錢六厘にてその内に事務所費其他一切を含んで居るから幼兒一人當りに要する一ヶ月の經費は二圓十九錢九厘となる。然に今東京府下の幼稚園の月謝の重なるものをあげると、一ヶ月。

壹圓の月謝は(三〇%)。

貳圓の月謝は(二三%)。

貳圓五拾錢の月謝は(二六%)。

參圓の月謝は(一四%)。

壹圓五拾錢の月謝は(一〇%)。

參圓五拾錢の月謝(四%)。

その他(二五%)。

等である、尤も實際はこの月謝よりもつと昇つて居る様に思はれるが東京府學務課の臺帳で調べるとかくなるがこれは月謝の改正を届け出ないかそれとも記載を洩らしたかの様に思れる。こうして託兒所の保育料と比較すると託兒所はあまり月謝が少なすぎる。

託兒所に於ては今少しく年の少ない、本當に手足まどひとなる子供を預つて、家庭の収入を増す様にして、そのかわりに月謝を壹圓五十錢乃至貳圓位に増したらどうであらふか、託兒所に子供を託したために月收の二十圓も増したらばその一割位を謝禮として支拂ふことは易々たるものであらふ、無料でやつて何時までもお慈^{なご}げ根性を持たせるよりは反つて好いかも知れない多少多く徴收しても之を有効に使へばよいそしてよくよく事情のあるものはこれを免除する制度を設けることも差支はあるまい、こゝにも關係者の一顧すべき問題がある。

(六)

終にも一つ述べべきは設備である、託兒所の子供を扱ふ上には諸種の衛生設備と遊戯器具の設備とを要する、矢張り十年末の現在の調に依ると三十六團體中その記載なき不明團體十二ヶ所であつて、二十六ヶ所の衛生設備を見ると、著更衣服(五九五)授乳器(三二)保育臺(七九)搖籃(五七)體溫器(八)身長器(八)胸圍器(八)浴室(一〇)衛生室(五)寢臺(三九)牛乳調節器(二)寢具(二六五)消毒器(四)等である、こうしてこの器具を二十四ヶ所に割り當て見ると一ヶ所に一個にも足らぬ重要な衛生設備品もある、殊に幼稚園には法令があつて遊園の如きは幼児一人につき一坪の割合を以て設けるとか、保育室は五人につき一坪より小なるを得ずとか、繪畫、遊戯道具、樂器、黑板、机、腰掛、時計、寒暖計、暖房器、其他必要な器具を供べし、とか、敷地飲料水、採光窓等は小學校の例に依るべし、等幼児を保育するに必要な概略を規定してあるが託兒所には一歳乃至三歳の幼児のあるためこれ以上の衛生的設備がなければならぬが、幼児の保健が論議される現代にも拘

らず、當局が托兒所に法令を設けてこれ等の衛生的設備を規定しないのは一種の怠慢とでも云ふべき大なる問題である。

けれどももしも託兒所に關する法令が出たなら三十六團體中恐らく該當する託兒所は三分の一もないかも知れない、若し半數以上も妥當する様な法令ならば有名無實で役にたぐぬものであるかも知れぬ、これは未來の問題。

此際法令の出ない前に先覺者たる託兒所の關係者は施設の改善をせらんことを望む。

(七)

尙ほ幼稚園にも託兒所にも共通の問題であるが今少し遊園には兒童に適した固定的遊戯器具を設備して兒童の運動慾を満足させて欲しい、どこに行つてもこの點は淋しい感じがする、この運動器具の設備が完全すると多くの幼兒は次から次へと異つた器具に就いて自治的に遊んで保姆の世話を少なくして不知不識の間に身體を健全にする、之に反して器具の不足した所では多くの幼兒を少數の保姆さんが聲をからして世話をして神經衰弱を起して終ふ、それは

保姆さんの不幸のみならず、幼兒にも大なる不幸である、どうかして關係者諸氏の一考を煩はして託兒所の改善を計つてもらいたい。 暴言多謝。

(大正十二年一月二十五日)

○東京女子高等師範學校

保育實習科生徒募集

本年度は全國より募集し、試験を用ゐず履歷書による檢定によつて入學を許可する由、希望の者は規定の書式を整へ檢定料三圓を添へ本人より直接東京女子高等師範學校長宛願出することとなつた。規則書入用の者は同校事務所宛請求せらるべしとのことである。尙入學願書受附期限は三月上旬まで、ある。委細は二月中旬の官報にある。

冬に幼児の保健

醫學博士 太田 孝之

小兒の冬の衛生といふ問題については日刊新聞の家庭欄や婦人雜誌にもいろいろの人が幾度か記載されてゐて恐らく大抵の御母様達は暗記して居られる此世人の眼に觸れてゐる事柄であつて御要求に應ずる方でもいつも同じ様な事ばかりしか御答へが出来ぬのであります殊に内務省の衛生局の出版になつてゐる「冬に子供」といふ「パンフレット」は瀬川博士が執筆されたのでありますが非常に懇切丁寧にかゝれてありますから是等を御覧になれば緊要な注意を與へられて大に御參考になると考へますし然し冬になりますとやはり子供殊に幼兒の病氣は少くなりませんから一二冬の病氣について相談いたしませう。

冬は申す迄もない氣温が低く寒冷でありますのに殊に東京の冬は北風や西北風で強く吹きますので一層氣温の割に寒く感じますこゝにいふ季節に一番惱ませられるのは何といつても身體機能の充分發達してゐない乳兒や幼兒でありますが幼兒で申せば皮膚に

は凍傷を起します殊に身體の末端になつてゐて血液循環の幾分悪い部分は強い寒さの爲めに凍傷になりその結果血液の鬱停を起し痒くなり或は腫れますし次では潰瘍となります即ち手の指や足の趾耳殻などが最も凍傷に罹り易い部分であることは誰れもよく知つてゐる所でありませぬ滲出性體質や貧血症の小兒は殊に凍傷に罹り易いのであります之を豫防する方法としては寒さを強く皮膚に感じさせぬ工夫より外にありません手足を温かく充分に包む保温を充分に行ふのであります寒い時には手や足を摩擦して置くといふのも一時的には效があります又一旦軽い凍傷にかゝつた時に重くならぬ様「ヨード」丁幾や「カ」ンフル丁幾を塗布したり其部分を湯で温めるのもよいのであります但是一般に凍傷に罹り易い體質のものは寒冷に抵抗が出来る様に體力を強めておくといふ事も必要でありますが是はそう急に間に合ひませんから平生からその方面の注意が必要となります。

次に寒冷季節には感冒に罹り易いことも誰れも御存じの事でありますが今日では感冒は一の傳染と見做してゐるので家族内で一人誰か風邪に罹れば就中流行性感冒の様な傳染力の強い微菌でありますご忽ちの中に一家中に傳播するといふ事も普通誰れでも知つてゐる事でありますそれ故風邪に罹つてゐる人が幼児に接觸する場合には咳嗽をしたり呼吸を吹きかけたりして顔のそばで話をせぬ様に注意せぬばなりません接吻や頬摺りは勿論嚴禁で場合によれば「マスク」をかける必要もありません感冒といふのは上氣道の一カタル—即ち鼻腔から鼻咽腔や咽頭の「カタル」でありますから、こゝにいふ際には出来るなら強い風の吹く日には外出を禁じ塵埃の多い場所には連れて行かずに早く手當をして癒すことが必要であります、軽い感冒なれば家庭の單簡な手當で充分であります即ち度々吸入と咳嗽を行はせること室内をなるべく温かくして小兒も温かに著せおくのであります餘り鼻汁が出たり咳嗽が劇しかったり乃至は熱があつたりすれば多少の醫藥を用ゐねばなりません平生から滲出性の體質であつて皮膚や粘膜が弱つて度々感冒に罹り易い子ではかりその感冒をよい加減に

捨て、おいて慢性にならぬ様に嚴重な注意が必要であります慢性になりますと平生たゞ黄かつた濃い鼻汁が出たり扁桃腺や咽頭が腫れてゐたりして軽い咳嗽が出ます此は一吋した寒い風に當つて又急性の「カタル」を起し高い發熱までする場合がありますかゝる場合には一日も早く慢性の炎症を適切な醫治によつて治療しおかねばなりません感冒が重くなると氣管枝「カタル」や一層すすんで肺炎といふことになりまします又突然に健康であつた小兒に「クルツブ」性肺炎を起すこともありますが是等については略して申ません

冬の小兒病の中で感冒より一層傳染力の強いのは「デフテリア」で秋から春先へと引つゞいてかゝり易い病氣であります。しかしその數も感冒よりは少ないので、直接の傳染は勿論ですが帶菌者——咽喉に微菌はゐても其人自身は病氣になつてゐない人又癒れば微菌がゐなくなるはづであるのに病は癒つてもまだ微菌丈が咽喉に残つてゐる人——かういふ帶菌者に接すると云ふ事が傳染の機會でありますから患者が一人出來たら他の健康な子から嚴重に隔離する事が最も肝要であります。

百日咳も秋から春先へかけて殊に多い子供の病氣であります。百日咳の微菌が初めて侵す場所は咽喉で荒い空気を吸ふて咽喉のたゞれ易い冬の時節に多く感染し易いのであります。

「デフテリア」は手當を早くすればぢきに癒るものですがこの方は治療が稍困難で長くかゝる處から氣管枝「カタル」肺炎などの合併症を起し易く殊に結核に對する抵抗力が弱くなります爲に結核性の病氣を起す事が多くあります。又百日咳も體力が弱くなり榮養が悪くなり瘦せますから出来る丈早く治療する事が肝要であります。この病氣は初期が最も傳染し易い時期でありますから完全になほるまでは學校とか幼稚園とかいふ團體の中へは出さないのが徳義上大切だと思ひます。

○幼稚園當來の問題

「教育時論」新年號で當來の教育問題といふ題で諸家の意見を集めた幼稚園に關するものを抜き出して見る。(記者)

○ 私立帝國小學校長 西山 哲 治氏

何年前には幼稚園の有害無益論などが出たものであるが、今日では大都市には必ず二三十の幼稚園あり、町村にも一、二の設立を

見るといふやうになつた。これは幼稚園の必要を事實の上に證明されたものと見られやう。數多く設立され、益々その實際的保育について深い研究を希望する次第である。

○ 東洋幼稚園長 岸邊 福 雄氏

日本に於ては幼稚園は民間に於ても輕視され、當局に於ては尙更ら念頭になく、學者も亦幼童研究を眞面目にして居る人は少なく、五十年の昔とその差幾干もありますまい。幼稚園保育を受けた人が文部大臣になる日が來ましたら自新らしい活動もありませうけれども、幼稚園教育の本場は獨逸でありますが、熱を以て活躍して居りますのは米國でせうか。米國には四種の幼稚園があります、中流以上の幼兒のもの、下層のもの即托兒所と、近年シカゴを中央として起つて居る親母に育児法の理論と實際と教授しますのと、それからセントルイス中心に行はれて居ます小學教育を六歳以下より開始しやうとして設立して居るものとあります。幼稚園教育が分らぬ小學教育は兒童が苦しめられて居ます。

○ 東京女子高等師範學校 附屬幼稚園主事 倉 橋 惣三氏

一、幼稚園保姆の資格を高めること、現行令では小學校準教員を以て保姆の資格としてある。これは當然、小學校正教員の資格にあつたためらなければならぬ。之がためには正保姆準保姆の別をたてるのもいゝが、理想は勿論みんな正保姆にすることである。

一、幼稚園保姆待遇をあらためること、幼稚園保姆の待遇は小學校教員に準することになつてゐるが、年功加俸其他同等に扱はれてゐない。此の差別は全然撤排すべきである。

一、幼稚園保姆養成機關を完成すること。

保姆と園兒との接觸と幼兒の興味

京都豊園幼稚園 馬場 定 一

幼稚園を如何に管理すべきかの全體に關する適當な書物を物色して丸善をあさつて居た中アットウフド女史の「幼稚園の理論及實際」(Kindergarten theory and Practice) というのを見附けたので早速讀んで見た出版は一九一六年で少し古いけれど理論といふよりもむしろ實際の問題を學問的によりも實際的に、親切な行届いた書き振りで述べられてあるので、思はず大體目を通して見た、勿論内容に新らしい事も特別の點も見出されないが、實際家には痒い處へ手が届く感じがする事と思つたので譯し方はまづいけれど兎に角部分的に所々を紹介して見たと思つて貴重な紙面をお借するわけです。

保姆のなすべき第一の事は、幼兒との接觸點を見出す事である。勿論之は子供の興味の中に見出さるるものであつて、保姆は興味より、一層善き且つ豊富な經驗であるに信すべきものに誘導するのである。此の興味の發見には海圖やコンパスのやうな力

強い助けはない。元來子供等の興味は其以前の經驗に影響せらるゝものであるから此場合保姆の常識や洞察が其助けとなるわけである。

殖民地の仕事に成功して來た西の方の州の一保姆は次の様な事を語つて居る。是等殖民地の子供に保育を始むるに方つて、子供と接觸するのに非常なる困難を感じた。普通の幼稚園法の實施では全く平面的なものになつてしまつた。其子供等は茫然した、感じの鈍いものであつた。有ゆる方法を試みたけれども何等反應を認むる事が出来なかつた。所が或朝の出勤の時であつた。幼稚園の側まで行つて見ると、いつもの鈍い子供等の一群が、今日は全く別人の如く生々とした活潑な子供に變つて居つたのであつた。彼等はブリューバードと云ふゲームをやつて居たがそれは吾々から見ると全く無意味と思はれるやうなものであつたのに子供等は非常な興味と熱心を以てやつて居つたので、之れに就いて深く考へさ

せられたのであつた。子供等が這入つて來た時にブリューバードの遊び方を尋ねた處早速説明を得て直ぐ分つた。それから其朝の細目は注意深く作られて子供等に選ばれた他の遊戯も加へられたがブリューバードはその第一位を占めたのであつた。是以來是等の興味からもつと満足の出來る様なゲームや、唱歌又は恩物其他の材料を使つての遊戯等に漸次に誘導する事が出來て終に望み通りにこの小さい人々の團體を幸福な活氣のあるものとしてしまつた。此婦人は子供等と接觸の手段を見出したのであつた。そして最早之を用ふる事に躊躇しなかつた。

朝子供が幼稚園に集つて來てから始まる迄の二十分餘の時間は、保母の一日中最も尊き時機である。この時間は子供等が保母の看護から放れて居て保母にとつては、子供に最も密接に接觸する事の出來る時であり、最も價値ある研究の出來る時である。此の時機を怠り又は他の用に使つて居る様な保母には訖度いつか悲しみが來る筈である。之は保母にとつては、自分の仕事を準備する時でもなく、又帳簿をつける時でもない、或は又助手を連れて園内を巡視する時でもないので、子供が自分自身のものと感

じ得る時であり、そして又子供等の使用に神聖なるべき時間ではなければならぬ。又子供等にとりては、其可愛い手を先生の手の中に入れて暖かい握手を交換し、相互の暖かい朝の挨拶を交はすべき時間である。而して自分が出席して來たといふ事がどれ丈先生に今日一日の喜びを増させるものであるかを子供等に感ぜしめるものである。又子供等の仕事や遊戯をするに方つて眼の中には希望の光を興へ、心には暖かみを加へ其一日を通して子供等を喜ばせるあるものを贈るものである。

人はこの朝の個人的の挨拶の價値を幾ら強く云つても、強く云ひ過ぎるといふ事はないのである。朝の會集に對して贈る處の保母の形式的なお早うの言葉は、この個人的の挨拶に比ぶれば全く無意味なる虚禮に過ぎないのである。

子供等には此時間に於て、奉仕的に、園の仕事に楽しく従事させるがよい。或は植物に水をやるものもあり。室内の掃除をするものもあり、小さいホーやレーキを持つて其日のために砂場を準備するものもあるだろふ。子供等をして保母を愛せしむるためには、何か保母のためにさせなさい、と同様に子供に

幼稚園を愛させるためには、何か幼稚園の仕事をしたがよい、この事は子供をして所有の念を起さしめ、幼稚園を大切にすることを起さしめるものである。奉仕の楷程は子供を保姆に結びつけるものである。然るにさうはさせないで、小さい子供が幼稚園の室に這入つてトボ／＼と會集中の自分の席に進み、日課の初まる迄、恰度床に打ちつけられてある木釘の様に坐つて待つて居る様は誠に可憐なものである。けれども之れに反して、この始業前の子供が或は仕事をしたり、或は遊んで居て、生命と活動の氣分に満ちて居る幼稚園に這入つて見て御覽なさい、どんなに清々した氣持になるであらふ！この時間に於ける幼稚園の空氣は、實に其園に於ける保育の基調音を打つものであつて、夫を以て幼稚園自身を語るものである。

數年前の事であつた。保姆教育を受けた一婦人が其の子を或る有名な市の公立幼稚園に入れたのであつた。初めの程は其の子は熱心に滿ち、楽しく通園して居たが、暫くしてから、其の子の興味は失せ足は漸次進まなくなり、遂に毎日すかしなだめなければ行かぬ様になつて來た、其婦人は如何にして子供

の心がこんなに變つた事か、其理由を發見する事が出來ないので寧ろ一日か二日休ませたが好かるふと考へた。休ませてから二日目に先生が訪問に來て、正直にこんな意のことを話したのであつた。「少し氣儘でいらつしやいますので、一寸困つた事が御座いましたのですよ、少し強過ちぎるとは思つたのですが、先達、いつもの氣儘が出たものですから一寸室から出しましたの、それ以來私から離れておしまいになつたので御座いますよ」。婦人は先生の正直な説明に由つて、すつかり分つたのもう一度子供を幼稚園に出す事にした。けれども駄目であつた。どうしても矢張行きたがらないので、も一度先生との間を親密な状態に戻し度いと考へて、一つの目論見を思いついた。それは子供と一諸に花屋に行つて、花を一束買つて、翌朝それを先生の處へ持つて行かせる事であつた。他の子供と同じ様に、自分も先生に贈物をするのだといふので大變な喜びであつた。翌朝婦人はその子を連れて、幼稚園に行き、自分は悟られない様に室外に立つて居て、子供が如何な風に先生と和解するかを見て居つた。子供は嬉しうに這入つて行つた。先生は恰度子供に脊を向ける様に

椅子に掛けて居た、多分帳簿でもつけていたのだろう。子供は一寸の間先生の左側に立つて居つたが、もう待ちきれないと云ふ風で今度は後を廻つて右側に立つて稍憶病さうに花束を先生の前へ差し出すのであつた。先生は一寸見て「ハイ、そこへ丁寧に置いておきなさい」と云つて再び仕事にかゝつた。子供の首はうなだれ頬は涙をせき止める爲めに振へて居た。この様子を眺めて居た婦人は心の沈むのを覺えた。そして遂に翌日他の幼稚園へ連れて行つた。この保母は保育の仕事に不注意なため遂にその捕るべき機会を逃がしてしまつたのであつた。

以上積極、消極の二例に由りて、朝の時間の子供と保母との接觸の價値は充分明かになつた事と思ふ。

抱かれない心いつばい

愛ちやんはおつむが痛い

よりそふてくる

(K子)

十二月のはじめの可成寒い風の吹く或晩のこと
一露人の家庭を訪れた。家族は父と母と十歳になる姉と其の年の五月に生れた赤ちやん。

母の手から父の手へそして又客人である私の膝へうつされたその蔷薇色の頬の赤ちやん。抱いてみるとあまり身體が直接に感じられるのでよく見るとうすい地の短い簡単な肌着にも一つネルのコンビーション(キチンと寸法をあはせずブラウ、な出來の)だけ、他にはチャン／＼一つ布一つない。

小さい手足をピン／＼自由にのびたりちぢめたりはづみ人形の様な活動振り。

私の通されたのは居間であつたからはじめはもしや着物を更へる所ではないかと思つてゐたがいつまでたつてもそんな様子はない。お元氣ですれと云ふと、もう足をはこびますよ、とお父さんに支へられて可愛いあんよを交り番に動かしてゐる。半年の赤ちやん、冬のよなかに。

もし日本の子だつたらチル幾杖わたいれちやん／＼は勿論幾重にもまきつけたあのおむつ。身動きすらようやく、なゝるほど。と私は思つた。

日本の赤ちやんは着すぎますね私達は國でも室内はこれ以上させません。とはお父さんの説明であつた。勿論室の中は(火鉢で)充分に暖められてはあつた。

おはなし二つ

東京女子高師保姆 新庄 よし子

猿と玉葱

猿が澤山で一緒に住んで居りました。

大分氣候がよくなつて來たので元氣よく鬼ゴッコや、かくれん坊や、飯事して夢中で遊びまはつて居りました。すると向ふの方から、八百屋のお爺さんが、籠をかついで、

「え、茄子に人蔘、大根に生姜」と云つて歩いて參ります。前と後の籠の中にはとりたての、野菜が、青々として一ぱいあります。猿の大好きな人蔘や、おいも、其の後の方の籠の中から一つころころと、ころがつて地に落ちたものがあります。八百屋はちつとも知らないでズン／＼行つてしまひました。すると一番喰ひしんぼうの猿吉が見つけて。ヒョイとび出して、その落ちたまるいものを拾ひましたので、さあ外のお猿も承知しません。皆夢中でそつちの方へかけて行きました。

「何だ何だ」

「見た事もないものだね」
「ころがして御覽よ」
「ころ／＼ころがるけれど、いつものゴム毬とも違ふ様だね」

「おや／＼皮がむけるよ、だけど一皮むいたが實が出ないよ」

「そんな事あるものかね、もう一つむいてごらん」
「まだ出ない」

「さあ、何だらう／＼と解らないので、もう大騒ぎです。何しろ食ひしんぼうの集りですからもう中味が食べたくて／＼たまりませぬ。中にはぢれたくなつて横から手を出しておこられて居るものもあります。」

「けれ共むいても／＼皮ばかり、初と同じです。」

「さあ、少し不思議になつて來ました。氣味も悪くなりました。随分おかしな木の實もあるものだと、其の玉葱を持つたま、お猿さん達はだまつて考へ始めました。」

「どうもおかしいね、いくらむいてもくくみが出ないよ」

「何と云ふ名だか知らないがこんなに澤山着物を着て居るんだから寒いくく北の方の山のお土産かも知れない、そうでなけりや、お爺さんや、お婆さん達に育てられた寒がりの意氣地なしかも知れないよ」

そう云つて今度は皆でつぶし始めました。ところがあの、くさい玉葱の事ですから、さあ大變、皆もう目が痛くてくくたまりません涙をぼろくくこぼして行つてしまひました。

一一、九、二三、作

蝸牛

綺麗なお庭に大きな桐の木がありました。或日の事ひよつくりと蝸牛が桐の木のすつと上の方に出ましたが何しろ有名な足の方ですから、一寸位の道を歩く事も随分大變です、よちくくどそれでも一生懸命に下の方に下りて來ました。蝸牛は雨が大好きです。雨が降れば、大變に元氣になつて少しは早く歩けます、お待かねの雨が降つて來ました。靜かに

靜かに降る雨の日です。もう大喜びグーツと軀を殻のお家からのばして角や目玉も思ひ切り出して外の景色を眺めて居たら御近所の雨蛙の家で今晚お客をしますから遊びにいらつしやいと云つて來ました。

丁度幸い雨が降つて居るので、いつもより早く木から下りて八ツ手の木のお家に居る雨蛙さんのお家に著きました。色々なお客が居ます。そしてダンスをするのだそうです。丁度來合せたお客の一匹が大變に蝸牛に似て居ます。足がのろくて、軀がぬるくして居て、角や目玉に何かさはるとぢきに引込めます。たっお家だけはしよつて居ません、なめぐじと云ひます。大變よく似て居るので、そこで親類になりました。

外にはいなごや、ばつたや、こほろぎ等も居りました。

蛙は

お池のピョン太郎さんはピョンくく
母さんと一緒にピョンくくくく

と云つて一番先に上手に踊ります。皆で拍手いたしました。

蟻は稻の穂を持つて多勢でお米踊りをしました。

こほろぎはそれはくよい聲で思ひがけなく高く飛び乍らハイカラなダンスをしました。

もう皆面白くてく最後に合唱をしました時にはすつかり浮かれて夢中ではねまはりました。

蝸牛もなめくじも自分達は無藝ですが面白くて、角も目玉も軀ものばしきりで引込める事なんかすつかり忘れて居たので、お庭に歸りましてからグツスリ眠つてしまひました。

翌日になり、昨日あんまり面白かつたので又どこかに行つて見度くなりよろくくと出かけました、すると、それはきれいな真赤な御殿があります、餘り綺麗なので知らずくそのお家の方に参りますと赤い扉があります、それを殻でギユツと押しますと自然に扉が開いて赤いお室があります、真中には又真赤な衣を著た坊さんが居ました。珍らしいお客なので大變に歓迎して呉れました。ほうづき御殿と云ふのだそうです、澤山に御馳走になり、キュウくと云ふ音楽をききました。

今日も亦面白う御座いました。

翌日は少し變つた方に行きました處細いく枝ですが先の方で何だか大變にいゝ香がして、ヂツとし

て居られません、のろくと上つて行かうとすると、思ひ切りのばした角の先に、それはく痛いものが、あたります、ピリツとしました。大急ぎで殻の中に引込めましたから大したけがはありませんでしたが随分痛うございました。これはバラの木でした。もうこゝは厭になりました、今度は、上の方を見ると大變おいしそうな柿がよく熟して居るので、御馳走になりませうと思つて一日がくりで、實の處に届きました。一番甘そうに熟して居る實のそばで、グツト軀をのばして、柿をなめました、もう少しくと思つてなめて居る中に、烏の勘さんが柿を見つけて、飛び下りて來ました。柿を食べるのかと思つて居ましたら、見なれぬ蝸牛を見つけて、自分の方に嘴をむけて居ます。もうびつくり仰天して大急で縮めました。勘さんは猶嘴を殻にさし込んで來ましたので出来るだけ首をちめてブルくして居ましたらもう何も居ないと思つて殻を二三度つゝいただけで、よしたのでやつと命だけ助かりました。

もういゝ香やおいしそうな柿などにつられて食ひしんぼうすると、大しくじり、今日は失敗ばかりです、それでしばらくは出かけるのをやめて桐の木におとなしく居る事にしました。一一、一〇、一八、作

幼稚園のゲーム

原著 ライトソン

補譯 土川五郎

三、名指し

準備 コップ サジ シャボン タオル 人形
ボール等幼児の日常生活に接觸するものから材料を
擇む。

保母はそれ等の品々を一行にテーブルの上に置いて、「誰さんコップを持って居らつしやい」と命ずる其詞は緩やかに、はつきりさせねばならぬ、そして幼児をして先生が自分に何を要求して居るのか、明らかに受取れる様でなければならぬ、幼児は其命じられた品物を先生に手渡した時に先生は次の子供に命令を發する。

若し幼児のうちに其命じられ品物を取る迄に時を要して其間の注意集中が不適當な者が有つたならばそれに注意力を強ひて纏めさせないで、直ちに其座に歸らせて獎勵的の詞を以て慰めて置かねばならぬ、そういふ子供は徐々に其練習を繰返して終には

緩やかに然も確かに出來得る迄辛抱よく試みたいものである。

四、ボール投げ

準備 メドイシンボール

子供等を遊戯室の一隅にあらしめ教師はボールを其群兒の中心に投げる、其ボールを受け得た子供は直ちに教師にそれを投げ返す、教師其ボールを受けた時は又直ちにそれを中心に投げる、若しボールが床上にころがつた時は全兒童に早く拾つてなげることゝ勵ます、決してある子供を名指してはならぬ、其中心に向つて投げるのは全兒童の注意を働かすの爲めである、若しも特に靜かに投げ又受けしめんとするには、特に名指して投げるのがよい、

目的 目と手の練習、注意、自然の活動、

五、球ころがし

準備 二十四個の色ブロックと六つの着色したボ

ール(色は赤、緑、黄)

直径三フィートの圓を描き、圓から十五フィート離れて一線を引く。

圓周の内方にあまり密接しない様にブロックスを置く。

一生を呼び出し其線に立たしめ、倒さんとするブロックスをねらつて一度に一つづつボールをころがして、出来るだけ澤山にブロックスを倒すことに努めしめる。

そしてかくの如く子供を更へて之れを繰返すのである。

倒れたブロックスを散在して居るボールは他の二人の子供を擇んで正しき位置に直さしめる。

目的 確實なるねらひを發達せしめる、**注意**、自然の活動。

六、置きくら

準備 一と色のブロックスを遊ぶ子供の數だけ用意す。

横に長き一線を描き其線の一端から十二インチの距離を置いて縦に短き線(十字となる)を幾つもかく、其長き線と平行して十八フィート離れた所に一

線をかきこゝを出發點とする各生にブロックスを置いて出發點の線の立たしめ、合圖によつて子供は走り出す、そして十字のある所で縦の短かい線(横に長いのでなく)の上にブロックスを立て、直ちに出發點に歸る、若し倒れたのがあれば其れを置いた子供に再び戻つて正しく直ほさせる。

其の遊びは三四回つゞけてなすべきである。
目的 筋肉の統制、**注意**、遊戯精神の獎勵、自發活動。

七、ボール廻し

準備 ドイシンボール

子供を圓列に、一人一人の間が五フィート離れて坐らしむ

一人の子供から次の子供へ球をころがして送る、若し圓周からボールが離れた時は一人の子供に命じて取らしめる。

別に圓内を横切つて相對した子供に送ることも一法である。

此の遊びは遅れて居る子供や足の強くないものによい、活動好きなものではない。

目的 筋肉の統制、**注意**、遊戯精神の發達

八、命令と模倣

子供を静かに坐席にあらしめ模倣力を強めしむるために次の命令をする。

- 1、皆さん目をお指しなさい
- 2、口は
- 3、鼻は
- 4、耳は
- 5、手は
- 6、足は

子供に對し決して強制的に命令してはならぬ子供が此の命令に聞いた時に自分の組の他の子供の爲すことを模倣せんとする望みを増して來る。

目的 命令をきく、注意、模倣

九、沈黙

園に於てある一時静かにあるべき時を作ることは保育上頗る有效である、其時間は三秒乃至五秒間で其間は實に休息の状態にある静かさを保つのである。故に子供は坐して居るのもある、腕組みして居るのもある、足を投げ出して居るのもある、椅子によつて居るのもある、或る合圖によつて全園の幼兒が静かに、次の合圖によつて引き戻す。

教師は此静肅を解いた時に、幼兒が落付きのある、注意のよくまごめ易い事を發見し得る。

目的 休養、注意、平和

沈黙の合圖は一室にあつては黒板に丸をかくもよし、綺麗な笛の聲もよし。

お隣の清ちゃん六歳、奴子風が子供になつたように、かたくしつかり肥つた子。友達に向て。

「ふしや子さん(フサコ)しょんな事しやら(知)いのか」

と云ておました、私が「清ちゃん櫻と云てごらん」と云たら、

清「しやくや(サクラ)」

私「じゃ、雀は」

清「しゆじゆめー」

私「おすし」

清「……………のりまき……………」

小さい勝利者は身體中でりきみかへつておました。

個人性格と社會性格

東京女子高師教授 倉 橋 惣 三

○個人性格の意義

此個人的性格と云ふ言葉は餘り適切な言葉の使ひ方ではないかと思ひますけれども、云はゞ人間を一人として考へた時の其價値の附け方であり、Aと云ふ人間が、Aと云ふ人間としてどんな價値を持つて居るか云ふ立場から之を見た時に個人的性格と云ふ問題が、起つて來る、最も代表的なものは密室に立籠りまして、宇宙の偉大さを感謝して居ると云ふやうな宗教的な其生活の状態、或は深く自分の生活を思ひ潜めまして到達して居る、哲學的な生活ををして居る其立場から見た自分と云ふやうなものは言換れば他のB、Cなどは無交渉な只Aそれ自身として考へて居る生活であります、宗教的或は哲學的な場合はそれで宜いとして、實際の生活に於てAがAとして一人居ると云ふことは人間社會生活に於てはない筈である、必ずBが、隣りに居るか、C、

が前に居るか他の個人と云ふものと關係を持つて居るに相違ないのであります、併しながら其他の個人と交渉して居る場合と雖も、若しも其Bと云ふものを矢張個人的存在として其處に考へましてAと云ふ個人とBと云ふ個人との其互の個人的性格に依る交渉と云ふだけの問題を考へた場合に於ては矢張Aは個人的性格を一步も出て居ない、Bも亦個人的性格の所有者として取扱はれて居るだけであります。

○關係道德と性格道德

抽象的な言ひ方ではありますが、例へば信實であること云ふやうなことは、是は或る見方に於ては人間生活の最も基礎的な中心的なものでありませう、英語で云ふシンシアである、信實である、信實とは誰に對して信實であるのか、現れた所で云へば、約束を守ると云ふことは誰さんの爲に信實を守ると云ふこともありませう、其友人に對して信實を守ると云

ふことでもありませう、債權者に向つて信實を守ると云ふことでもありませう。併しながら信實と云ふことの最も中心的な意味はAが、自分に對して信實であること云ふことを以て基礎とする、信實と云ふことをもう少し平に云ひました正直と云ふやうなことは其働いて居る關係に於ては人に向つて正直な、人を欺かざることでありませうけれども其性格としては正直な性格である、言換れば自己に信實な性格の所有者である、謙遜と云ふやうなことは、其現れて來ます外形に於ては誰に謙遜であるかと云ふやうなことになりません、主人と對して謙遜である、先生に對して謙遜である、併しながら、謙遜と云ふことを極く其中心的意義まで突詰めて考へますならば、相手に依つた謙遜ぢやなくて、自己のキャラクターの中に性格の中に謙遜的性格がある、形で養はれた道徳生活に於ては相手に依つて自分のキャラクターを變へることを平氣でいたしますけれども、性格を根柢とする所の道徳生活に於ては自分の方が、信實な性格を持つ、自分の方が謙遜な性格を持つて居るが、故に人に對してそれが現れて來る、斯う見なければならぬのであります。我が國の謙遜と云ふことは、多

くは遠慮と云ふやうな、信實が、正直と云ふやうなことになると同じく謙遜が、遠慮と云ふことに能く似かよつて居りまして、人に向つて遠慮する、所謂對象的なものに對する場合と云ふだけに考へられ易いのであります。若しも謙遜と云ふことをキャラクターでなく、性格でなく、人間と人間との關係の事實であるとして仕舞ひますならば、是は謙遜と云ふものが極めて淺薄な或は貧弱なものになつて來る、あの心に信實な謙遜的キャラクターを持つことなくして、只關係道徳に於て約束を破らない人、關係道徳に於て崇めなければならぬ人の前に遠慮して、それだけのものと云ふものは幾らも見るところであります。

人間はもう少し深い所に生活の根柢があり、教育も亦もう少し深い所まで這入り得るのぢやないかと私共は思ひます、子供を教育する上に於きまして、いきなり性格の信實、性格の謙遜を使つて、それを至る所に主人にも信實なれ僕にも信實なれ、強い友達にも信實なれ、弱い友達にも信實なれ、上の人にも謙遜なれ、何處の乞食にも謙遜な心が持てるやうになれと云ふことは子供に向つて可なり難かしいことであり

ませう、故に子供を教育する方法が取つて居る道として、は對象的に關係生活的に誰に誰にと云ふ當途のある關係生活で信實謙遜を経験させ又説聞させますけれども併し其窮極する所はさう云ふ性格に之がななくちやならぬと云ふ意味に於て個人性格と云ふものを考へて行きたいと思ふのであります、若し我の生活が只關係法則に依つてのみ考へられ支配されて解決し得たと定めて仕舞へば、個人性格と云ふものはあつても無きが如きものである、併し個人性格の發揮であると考へて來る時に個人性格と云ふものが問題になつて來、價値を持つて來るのであります。AがBに對する關係としまして親切と云ふやうなことが起る。信實は最も個人的性格のものであり、謙遜は稍々對象的のものであるが、親切に至つて、益々對象の趣きを備へて來るを免れませぬ、私は信實である、宇宙陸合に對して何だか謙虛な心持がして來ると云ふことに比較しまして、誰の當途なしに自分は親切であると云ふやうなことは是は少し考へ

難いことでありませぬ、考へ難いことではありますけれども、其親切と云ふものゝ根本基礎になります所の其性格と云ふものに何と云ふ言葉を用ひて宜いか

分りませぬが、或る性格があつて、其性格が色々の對象に向つて發揮すると考へれば、之も矢張關係道德ぢやなくて性格道德になつて來ます。と申しますのは多く關係道德、關係生活と云ふのみで考へられ、或はそれで律せられて居ることも、其實は個人性格と云ふ所に基礎を置かなければならないものなのでさうした時だけに本當の價値と云ふものがあるのだと云ふことを見やうとするのであります。

此個人性格と云ふものは教育の目的の中に於て大事なものであると云ふことを今までの教育に於て決して忘れて居つたものではありませぬ、恐らく今までの教育が狙つて居る所は主として其個人的性格であつたでありませう、只私の餘計な心配を持つ所は今申しましたやうな意義に於て個人性格と云ふことが、中心にまで、考へられて居るか矢張關係生活と云ふ所で止つちまつて居るかと云ふことに付て多少の疑を持ちますけれども、併し此方面の教育を主にして居ると云ふことは認めるのであります。

○從來説かれたる二性格の

關係と現社會

所が此處にも一つ我々の考へて來なくちやならぬことは哲學的に考へて來ますれば、個人と云ふものは判然した獨立のものでありませうけれども、我々の生活して居ります此現實に於ては獨り生活して居ると云ふことは抽象なことであり、事實は必ず大小に拘らず或る社會生活をして居る、其社會生活をして居る時に今申しました如き個人的性格と其社會生活を營み得る性格とどんな關係になつて居るであらうかと云ふことを考へる必要が起つて來る。

此問題に對して多く考へられて居りました解決は斯う云ふ論法になつて居ると思ひます、人間は個人的性格と云ふものが第一次的に信實なものである、それが人と關係して來る時には獨りで生活して居るとして考へた其個人的性格、そのものだけではいかない所がある、只正直で只謙遜であると云ふことだけで、其己を正しうし、己を全うし、己を守ると云ふことに於ては、それで宜いでありませうが、社會生活をするに於ては、それだけだけでは出來なくなる、そこで色々の社會生活に必要なものが第二次的に出來て來る、斯う考へなくちやならぬ、人間は本來個人的に生活するのが、主體である、

それが社會生活をするが故に二次的に色々の生活そこに始めて來る、二次的生活の中には消極的には一人でならば宜いけれども人と一緒に居るが爲に仕方がない、我慢すると云つたやうな其消極的方面もありませう、或は又人と一緒に居る時には人を愛すると云つたやうな積極的な出方に出て居るものもありませう、消極の場合に於ては明らかに我慢したのであつて、二次的のものでありますが、それは論外として、積極的に人を愛すると云つた心持、それは社會生活をするが故に生じた所の、二次的の性格であること云ふ風に考へる、それをまあ私は餘り内容に這入らないで問題の輪廓を取扱つて行かうと思ひますけれども、内容に這入つて具體的に見ますならば、例へば諸君の御承知の生存競争と云ふことを主體として、人間の生活を説明して居る所謂進化論の影響を受けました總ての倫學學、それを極度に倫理の形に於て實現したのは、例のホップスでありませう。

斯う云ふ風なものに於ては人間と云ふものを社會生活をするに於ては、どこまでも、各自、己を主とする、己を守る所の己を全うする所のものである

と云ふことを本體として、さうしてそれが第二次的に色々の社會生活の形式が生れて來るのである、斯う考へるのでありますけれども、若しも人間の生活と云ふものゝ中に個人的性格だけが、眞實に本當にあるものであつて、後は二次的に外から出來て來るものだと假にいたしますならば、其個人的性格を充分に教育すれば、自ら社會的性格も二次的に生れて來ると云ふ事が云へるのであります、或る場合に於ては個人的性格を充分に教育すれば其方ばかり強くなつて、社會的性格などは生れて來ないと云ふやうな論もある、又さう云ふ言葉で説明されやすいやうな事實も我々の近所に見るのでありますけれども、併しながら假に個人的性格と云ふものから第二次的に色々のものが生れて來ると云ふことを充分に認めたとしますならば、其個人的性格と云ふものを充分教育することに依つて、恐らく社會的の性格が生れて來る、斯う云ふ議論になる、從來性格の教育が個人的性格を主とすることに於て決して居なかつたと云ふことを私申上げましたが、それは同時に個人的性格を作することに依つて、當然社會的性格が出來て來る、實際的に云へば個人的完全な生活をなせ

るものは、社會的生活が完全に出來ると斯う考へて居つたと云ふことになるのであります、世の中はA B C D Eの集合である、Aにして眞に信實なる個人的性格を持つて居るならば、亦B C D Eも皆信實謙遜或は親切と云ふやうな個人的生活を持つて居るならば、自ら其社會と云ふものは立派な社會と云ふものになる、斯う考へて居つた。

其考は繰返して申しますならば、其個人的性格から第二次的に色々のものが生れて來る、社會的性格が生れて來ると斯う考へたからである、所が今日我が色々の人から教へられ又考へさせられ又氣が付く所に依りますと云ふと、社會的性格と云ふものは個人的性格とどんな關係にあるかと云ふことは暫く別として、それがそれ自身として人間の中に養はるべき獨立のものであると云ふことを感ずるのであります、例へば親切と云ふやうな所で申しますならば、己に信實、己に謙遜、従つて誰かに謙遜親切と云ふことは、寧ろ人に向つての關係的な意義を持つて居ると居ふ意味に於て餘程社會的な性格の一種になつて來るけれども、此親切がAと云ふ個人がBと云ふ個人に向つての個人的性格の現れと云ふ意味に

於て限られた親切でありましたならば、是がさながら其儘に社會的親切と云ふことは云へないのであります、此世の中は此通り親切なものでない、併しながら相會つて居る人々は可なり親切に個人性格として親切を持つて居る人である、さうして親切な人は彼方に二人、此方に二人と居るが、併しながら此社會と云ふ生活になりますと、此社會は決して信實に親切な生活が漲つて居ると云ふことが云へなくなつて来る、其時に或る人は斯う考へる、それは矢張本當の親切を一人々々が、持つて居ないからである、一人々々の親切と云ふものが、立派になれば、其立派な親切な人から築き上げられて居る、此社會と云ふものは親切を以て充ち満ちて居る社會になるに相違ないと斯う云ふのであります、或はさうかも知れませぬ、さうかも知れませぬが、併し可なりそれでは随分努力した今日、それが實現して居ないと云ふことは確かであります、今日教育は個人性格を本當に作るに云ふことに於ても大いにまだ微弱な所があるかも知れませぬが、それに付ては非常に努力して居る、而も社會としてはどうも本當の生活と云ふものが、生れて來ない、

親切からもう一つ進みまして、協同と云ふやうな問題に這入つたとします、此間に色々のものがある譯でありませうが、コーポレーションと云ふ問題に入つて、協同と云ふやうなことの出来る人は勿論個人性格として不完全な人が寄つては本當の解決は出來ますまい、けれども併しながら實際の事實を見ますと云ふと、個人的に己を守り己れを正しうし、己を全うし、或は何かの個人的關係に於ては相當に立派な生活が出来る人が寄集つて、協同が出來ない又しい場合が非常に多いのである、尙ほ又反對に個人性格としては甚だ駄目な人間、併し協同が出來て居ると云ふやうな場合も見える、蟻が作つて居ります社會の協同と云ふものは、人間が何も今更手本にするものでも何でもありませんまいが、あの驚くべきコーブラティブな協同的生活と云ふものは決して蟻が立派な個人的性格の所有者であるが故にあつたて居るのぢやないのであります、そこで私は個人的性格から總ての社會的性格が第二次的に生れて來ると云ふ事は、人間の生活を餘りに組合せのにモザイクに積木細工的に考へた抽象な議論であつて、社會生活其事實を事實として凝つて見詰めるものにとつて、

それは甚だ嫌らないと云ふ事と思ふのであります。

○群居から相互生活へ

此協同とか親切とか云ふことより、ずつと元とに歸りまして、人間の社會生活の根柢と云ふものは其心理的の極く基礎に於ては群居と云ふやうなことが一番の原になると思ひます、群居と云ふやうなことは形から見れば、寄集つて居ると云ふことだけであります、群居を好む心、或は群居したいと云ふ心、それを一人々々が持つて居る心の性格であります、個人性格として非常に完全な所謂聖賢の士と云ふやうな人が、必ず兩方のキャラクターを持つて居ませうが、修養の結果個人性格の非常に良く出来た人が、集りまして、一人々々に群居を好む心のない時には寄集りと云ふものは機械的に寄集りませう、相談的に寄集りませう、色々規約を作ることは出来ませう、契約を作ることは出来ませう、併しながら何處までも離れたA B C D Eで、一つ／＼に離れたものゝ集合に過ぎない、でA B C D Eから成立つて居る所の一つの社會、其最も基礎的に於ては其一つの群居と云ふものを作らない場合がある、之に反してAそれ

自身Bそれ自身Cそれ自身としては決して本當に信實な人間でもない、本當に謙遜な人間でもない、本當に親切な人間でもない、個人的性格としては出来上つて居ない人間同志でありまして、假に言葉を使へば所謂八公熊公でありまして、それが集合して居る時に於ては互の中に實に群居を好む、人と共に居ることを好む、群居を樂しむ所の其キャラクターの人であります、その作つて居る社會と云ふものは非常に立派なものが、出来て居ることがある、學校の場合で申しますならば、個人的性格の立場から見ても、操行一等の子供達が、本當に仲間を作るかと思つて、必ずしもさうでない、個人的性格の立場から行きましては、随分弱蟲であり又随分己にも守ることの力の弱いものであるけれども實際集る所に其仲間と云ふものゝ結合は實に靄々として行はれて居ると云ふやうなこともありませう、是は一例に過ぎませぬが、群居を好むと云ふやうな心持と云ふものは、決して各自の個人的性格の發達したる極致から生れて來るものでなく、其各自の個人的性格と云ふことゝ別にさう云ふものが、人間にあるのだと見て行きたい。

此協同と云ふやうな中の或る何處かの位地に位して居ります所の相互的生活、所謂ミューチュアリズムと云ふものがある、相互的生活と云ふことの形から云へば、やり取り、テーキング、ギビングで、向ふがやつた、此方が返す、あの通りすれ／＼になつて居る隣り同志が物を貰つて、御返しをすれば、外形的にはそこに相互的生活が營まれて居るけれども相互生活と云ふものは、其形でなく、心に這入れば相互生活を樂しむ心である、相互生活を喜ぶの心、相互生活なしには居られない心、是は群居と云ふことから、段々々々そこまで發達して來たものでありませう、群居の程度の高いものでありませう、群居は只一人居ることの淋しさ、一人居ることの物足りなさ云ふ心が一杯でありまして、さうして人と一緒に居たい、是は諸君のやうに失禮でありますけれども、個人的性格の方を非常に認めて居る方に於ては人と一緒に居たいと云ふ心は弱蟲の弱者の心と思ひになるか知れませぬが、是が人間の性格としては、個人性格としてはそんなことではいけないか知れませぬが、社會的性格と云ふ立場から見れば、之こそ眞純なる人間性である、人と一緒に居たい、け

れども己只一人己を全うする世の中にはなかく一人と一緒に仕事のしていけない場合もありませう、自分を捨てなければならぬ場合にもありませうし、離れなければならぬ場合もありませう、何事の苦勞なく妥協して人と共に居る人もありませう、離れて居る方が、個人的性格を正しう全うする、所謂高潔なる場合と云ふ場合も幾らもありませう、けれども其時に其人が個人的に一人離れて居ること云ふことに付て、何等の人間の淋しみと云ふものを其人が感じなかつたとしたならばそれは個人的性格としては信實、天を仰いで謙遜であつても併しながら、社會的性格としては缺陷のある人と云はなくちやならぬ、勿論只わい／＼として人と共に居たい、己を正しうする考もなく、己を守る考もなく、只人と一緒に居ることを好むわい／＼生活と云ふものは個人的性格と云ふ立場から見れば値打のないものでありませう、併しながら片方があつても、片方がなければ矢張それは完全な我々の望ましき人間生活とは云へない。

唯人と一緒に居ると云ふ弱い心から、弱いが、偉いのであります、其弱い而して偉い人間の心から群

居を好むものが、もう少し己に歸らないで、己に別れないで人に別れる、妙な言ひ方でありますが、人と一緒に居りまして己と云ふものに付て別れて來ると離れて仕舞ふのであります、併しあの人と唯一緒に居るのぢやない、あの方は自分とは別な人だと云ふ感じを向ふに付て人間が個人を離して仕舞へば、其人々に向つて仕事をしてやらうと云ふ感じが出る、向ふにも其感じが出る、其所にミューチュアリズム、相互生活と云ふことがあるので、相互生活と云ふことは決して御互に之から助け合ひまして、有無相通じて巧くやりませうと云つたやうな契約相談的だけなものではないと思ふ、我々の教育に於ては獨立心を養つて人の世話にならぬでも行ける生活、之を非常に尊重して居る、人の世話にならぬで行ける生活と云ふものは何處までも立派なことであり、併し人の世話になることを喜ばず、素直に受取れないと云ふ生活が、出來たならば、是は人間として缺けたものだと思ふ、人の爲に親切を致せ、人の爲に盡せよと頻りに教へる、併しながら親切をすることだけが愉快であると云ふ性格は個人として人の世話にならないでも宜いと云ふ獨立のものであつて、人の世

話だけはしなければならぬ、自分は人の世話にならないのが良いことであつて、人の世話をすることが良いのであると云ふ此考へ方と云ふものは二人の人間を同時に尊敬する意味から云ひますならば、解けない言葉であります、若し人の世話にならない、と云ふことだけが、本當に偉い道徳であるならば、親切と云ふ道徳は何處にも存在がない、人の世話にならなくつても行けると云ふ孤立獨立の力、個人的性格それは偉いものでありませう、併しながら、世話になりたいと云ふ心持、助けて貰ひたいと云ふ心持、或は助けて貰つた時に口惜しくもなくそれを素直に受取れる心持と云つたやうな心持は、人間として決して弱い心持ちぢやないと思ふ、其助けて貰つた時の喜、それを持つて居る二人が打突つて居る時に初めて相互生活が出來るのであります。

○本體としての社會性格

唯人に施すことを以て自己の満足を味ふやうな心の人が集つて助け合つた時に是は互に人を馬鹿にして居る生活であります、其相互生活と云ふやうな議論から出て來たことぢやなく、或るものから發出した

二次的のものぢやなく、相互生活それ自身、それさながらに我々が心に養はなければならぬものである。斯う云ふ風に考へたいと思ふ、皆立派になつてから助け合ふのぢやありません、皆が樂屋で立派に形作つて出て来て打突かるのぢやないのであります、生活其ものが初めから助けられるの喜、助けられた嬉れしさ助けられた有難さ、そんなものが養はれて行くのであります、勿論そこに一方には個人的性格と云ふものがありますから、個人的性格の立場から行つて、唯助けられると云ふことを喜んで獨立する方の意思も力もないと云ふことは、是はいけないうことでありませうが、同時に片方だけあると云ふことは人間として、決して完全なものぢやない、斯う云ふことを色々の點で數えて行きますならば、色の御話が出来ると思ひますが要するに私は此個人的性格と云ふものと、どう云ふ關係になつて居るかは考へて居ないのであります、別に離して考へられる所の社會的性格と云ふものが、人間にあるし、又それはそれとして養ふことが出来るし、又その必要だと云ふ各方面を持たうとする、今までの個人的性格を本體とし、さうしてそれを犠牲に供する所

に愛が生れるとか、それを抑へる所に氣高い奉仕の心が生れるとか、さう云ふ説き方は私は甚だ充分でないと思ふのであります、今日人間が集つて居ると云ふことから生ずる、集つて居る此集らずに居られない人間社會、集りたいから集つたのぢやなく、集ると云ふそれなしに我々が一日の生活が出来ない、集ると云ふことが本體であつて哲學的に話せば抽象的に話せば色々に變りますけれども事實としては斯うやつて居る、一緒に生活して居る、生活をして居りながら、而も其集合生活社會生活を營む方の心と云ふものを、偉く道德的に取扱つて居ると云ふことは、偉く綺麗なことに、偉く氣高い感心すべきことに取扱つて居ると云ふことは、即ち個人的性格と云ふものを第一義としてそれを抑へるとか、我慢するとか色々のことからのみ、社會生活が出来て來るものだと思ふからであります、若し私の云つた所を極端に云ふとすれば、人間は努力なしに群居が、努力なしに相互が、努力なしに協同が出来ると其社會的性格を本質的に持つて宜いと思ふ、又それをそれとして教養することが出来ると斯う思ふのであります、今日の社會的教育論、社會生活の訓練を本體と

する教育論と云ふものは此處まで行かなければ本當に徹底しないと私は思ひます、又そこまで行つて居ない人でもそんなことを臆ろ氣に考へて居るのぢやないかと思はれるのであります、本當に人間の價値生活と云ふことの極致を個人に置いて、社會的生活をして居るからそれに間に合ふやうな便利なやうに訓練することを社會的教育と云ふことの總てとするならば、社會的教育論は便宜主義的教育であります、個人として全きかと云ふこと、社會的に其人が素直に生活出来る人であるかないかと云ふことは對等な價値を以て取扱ふべきものだと思ふのであります。

○現世紀に於ける教育の

一問題として

私は倫理學の深い知識を持ちませぬからして、どうして我々が云ふ所謂人間としての第一次的な價値を持つことを個人性格の方にのみ限つて、さうして社會性格の方のことを我慢で出来る、便宜で出来る、妥協で出来る道德生活と云ふ風にするやうな考へ方が起つて來たものか、其由來を能く知

らないのであります、併しながら我々が往々にして持つ如き、あの人は社會生活に於ては、不適當な社會的性格を持つて居るけれども、言換れば社會的性格に於ては多くの缺點を持つて居るけれども個人的性格としてはあの人は完全であると云ふやうな云ひ方は、我々の捨てなければならぬ問題ぢやないかと思ひます、是が此世紀に於て我々が到達して居ります最も深く考へ直さなければならぬ教育の問題の可なり重要な一つぢやないかと思ひます、お前は友達と仲が悪かつた、お前は協同生活が出来なかつた、お前は相互生活が營めなかつた、けれどもお前の心は清いものであり、高潔なものであり、己を正しうしたものであると云ふことを以て天國に行けると云ふことは我々が今日少しく躊躇する結論であります、基督教自身が、或は佛教自身が宗教であり、或は哲學的考察でありまして、個人的性格の方に非常に重きを置いて人間を見た、従つて其結論が我々に影響して居る所に於て個人的性格を主にする人間價値と云ふ方に重きを偏つて居ると云ふことは、是は無理からぬことと思ひます、此世紀にあつて、此現代にあつて、我々が、新しく眼が覺めて來

ました、新しく築いて來ました宗教的哲學的考には個人的性格の他に斯うやつて居ることの事實、斯うやつて一緒に居ることの事實、此第一次的事實、二次的ぢやない、一次的事實と云ふものを見出したのが今日の新しい問題ぢやないかと思ひます、或は此考察を續けて行つて、矢張それが間違であることの後になつて氣が付くかも知れませぬ、人間は當然個人が本體で、集合は是は便宜な偶然であると云ふ事に矢張なるかも知れませぬ、而して今日我々が氣が付いて居つて、是が今日我々の稍々さうであると思つて信じて居る點は、個人の完全と云ふこと、同時に集合生活、社會生活と云ふことに於ての完全と云ふものを人間性格の非常に大きなものとして見て行かうとする、此考を基礎に置いた時に初めて、社會生活の教育、社會的生活が出来る人としての訓練と云ふものは、社會的性格其ものに於て訓練しなければ出来ないものだと思ふことが自然に分つて來るのであります。

今までのやり方で一人々々を教育してそつちから完全な人を一人出しなさい、此方からも一人出しますと云ふ風にして社會を作つて行つても、而も其一人々々は社會生活そのものに於て訓練された人ぢやなく一人として訓練された人は、密室に這入つて考へる時に、或は己を清くし正しくして、誘惑に負け

ないやうにし、人に下らず妥協しないやうにして、人に阿らないやうにして、人に下らなく降参しないやうにと云ふやうなことに於ては非常に訓練は出來て居るのでありませうが、阿るに非ず、降参するに非ず。妥協するに非ず人と親しむ協同すると云ふやうな心に於ては、大いに缺けて居る人があつたならば、其人達の作る社會と云ふものは何處までもコンベンショナルな便宜主義を失はないので、信實な社會は作れない、私は此點に付ては自分でも少し空想かと思ふ程の空想を考へた、詰り私共が自分の心を分解して見て、感ずる所の此人と一緒に居たいと云ふ感じ、助けると同時に人に助けて貰ひたいと云ふ感じ、與へるだけでなく向ふからもして貰ひたいと云ふ心、人の親切を其儘ずつと樂に受取ると云ふやうな心、所謂個人的性格から見ても弱いと云はれるやうな親しみの心、斯う云ふ風なことを第一次的に矢張人間の中に見出したい、又尊重し、それを養つて育つて行くと云ふことが、大いに考へなければならぬ問題ぢやないかと思ひます、涼いやうであります、もう一言申添へますと、個人的性格と云ふものを本體として、それが社會的性格に發達しないことを責めるのぢやなくて、社會的生活其のもの、養はれて居ないことを悲しむと云ふ考へ方を持つて行かなければならぬことが随分ありはしないかと思ふのであります。

(講演筆記)

梗概の説明

九月、十月、十一月

一、家庭生活。

家事の必要な仕事の中殊に家族の食物の供給に關した事は秋の日程に非常によい題材を與へる。食物の供給に關した仕事と云ふのは何れも日常親しみ深い事柄でその動作は單純で目的がありそして兒童自身の幸福と安寧に深い關係のあるものである。

ベッド ストープ 箒 桶 人形の如き二三のよく選擇された玩具は家事遊のいとぐちとなる。大きな木片はベッド、ストープ、かまどを造るのに使はれ、粘土はパン、お煎餅、菓子類を焼くのに使はれる。年長の兒童は自分達の人形のベッドを造るのに種々寢道具の仕度をする。食堂遊には紙のナブキンや皿敷が入用である。のちに説明するくのみや莓の類を糸で繋ぎ合せる様な事から順次發達した意匠が時には皿敷を飾るのに適用される。テーブル道具の配列又はテーブルに花を位置よくおく様に注意する事は

美術的な心を蓄へる原になる。

家事に對して兒童の興味を起し注意を保つ爲に又種々の遊びや仕事に動機をあたへる爲に室の片隅をしきりして舞臺を造るのもよい。此處には毎日玩具や木で作たものが置いてあり必要の起る度毎に附屬家具や装具が加へられる。そして家庭内の家族の生活―仕事も娛樂も―が充分に自由に劇化される。教師は會食やお茶に招くことを實際に爲る様に誘導してよい。かういふ事を實際に行へば勢ひ兒童は、パン屋、牛乳屋、雜貨商へ出かけなければならぬ様になる。穀物其他或る容易に準備し得る食料は、兒童自身買たり料理したり爲る事が出来る。大部分は兒童自身で發展させられ又他方には繪畫や會話で補助される是等の遊びや仕事の多くは、個々の考へ、目的、經驗、經過を兒童の頭に統一的に示す爲に役に立つ、と同時に是等の遊びによつて經驗といふものを更に進んで統一し組織立てることの刺激になる。

二、食物の出處。

買物に店へ出かけるといふ事は教室の中にお店ご

つこの店が欲しいと云ふ暗示になりまたそれが第二の計畫となる。そして材木や板切れが組立るのに、必要になる。はじめは子供一人々々で小規模に構成しました後に多勢で大きい建築材料を使って仕なはず事も出来る。多勢の子供が一度に一緒に遊べる様な大きい店遊びをする爲に子供達は自分で遊びの目的の爲に材料を選択したり形取つたりするのによい経験を與へられる。材料と方法、劇化其他に關する更に進歩した暗示は次章に於て見られよ。

庭園や畑を興味を中心にする事は子供の経験に必要な事である。建物、野原、畑、野生の動物等を表す小規模の箱庭は野の生活に親しみ深い田園の子供達にとつては興味多く且つ價値ある遊びの目的である。

雜貨店や、とりつけの店の果物、穀物野菜の實物を使ふ遊び又家庭で實物を使って食事の用意や給仕をする遊びは食物の製られる順序を明らかにする機會を與へる。バタを造る事は子供達にも上手に出来る事で又ジェリーを造る事の手助も出来る、そしてそのバタやジェリーは蓄藏して感謝祭の時に使用する。

三、季節に従ての活動と興味。

子供の興味は是等の家庭的な産業的な活動に向けられると同様季節及季節の特種な狀況にも向けられる。

球根は春先花の咲く様にこの季節に植付けられ、くるみ類や果實又紅葉や落葉は集めたり、より分けたり又繋ぎ合せて鎖にしたり花輪にしたりする。秋の花が咲くと子供達はそれを室内に飾る。繭を造る毛蟲を見守る事が興味あると云ふ事を強く感じさせる爲に子供達を外へつれ出して毛蟲を探したり又毛蟲を飼て置く準備をしたり手助けさせたりする。

季節に従つての日程の要點は感謝祭を祝ふ事と其の準備をする事とである。子供達はバタを造る事や他の保藏方で將來使ふ食料の用意をする仕事を手傳ふ。又市場で多くの野菜や果物を見たり又自分の家の畑から或野菜をとり入れる。是等の直接経験―それは繪や歌やお話や會話によつてもつと内容を豊富にされる―は收穫季節の意義を子供に認めさせる事の助けになる。

子供達は感謝祭の爲に室内を特別に美しく飾たり又自分達のお母様達の爲に簡單なお辨當をあげる様

に準備をする。バンにはバターやジェリーそれは子供達が手傳て實際に造たものをつけ又自分達で拾たり割たりした胡桃の類を入れる器にするのに小さい紙の籠を造る。

幼稚園時代の子供には此の祭日の歴史的意義は理解出来ないものであるからそれを話す事は間違てゐる。しかし此の日の社交的意義は、收穫に結び合せて又お友達や家族の人達と良い物をおふくわけする楽しみに結び合せて實事から理解される。その事は此の日の靈的意義の理解——それは長じてから爲得る——の基礎になる。

ハローウキンは子供達が、他の子供達を喜ばす爲の日である。それを機會に幼稚園と初等學年との集會が作られ、學校全體としての社會生活を奨励する。此の日のお祝ひには、かぼちや提灯や道化小人や鬼等を組合したりして、正しさを失はない程度で、滑稽を演じて楽しいお祭氣分を助長する。

十二月

クリスマス準備。

十二月の梗概は此の月の學校の三週間がクリスマスに關した遊びや仕事でみちてゐるといふ事を思は

せる子供達の此の日に關した連想はサンタクロースと玩具である。クリスマスの前晩のお話はクリスマス季節の多くの楽しみを喚び起すとして子供達はお芝居やまねごとや材料でそのお話の部分を實現する機會を充分に與へられる。玩具や玩具店を造る事は子供達の努力で更に進んだ劇を構成するように誘導する。歌やお話——子供の活動を表してゐる——或は子供の經驗から喚び起された心持は、クリスマス全體に互る經驗の價値を強める。——誰が私の玩具を買ふか——といふ歌は詩的な遊戲活動の一つの例證である。靴屋と小人のお話は、贈物を作たり思ひがけない喜びや驚きを含んでゐるのでクリスマス経験に最も關係深いものとせられる。此の祭日の靈的意義は或場合には第一クリスマスのお話をする事によつて強められる。

是等の幸福な多くの經驗のあとで子供達は彼等の兩親への贈物を工夫したり製作したり爲る事に熱心にこりかゝる。此のクリスマスのお祭は一年中の最も美しいものである。此の時機の子供達の仕事はあまり忙しかつたり過勞にならない程度で計畫されるべきである。又すべての準備はする事の楽しみと、

豫期の喜を伴ふべきである。贈物は丁寧に包まれ注意深く結ばれたり封じられたりする。奇抜な特別な招待がお祭の爲に子供達で計畫され、實行される。又子供達はクリスマスストリーを買つて来て剪を入れ枝ぶりを整へる。そして子供達の父母や弟妹が集つて一緒に分ち合ふその最後の日が来る前、五六日間といふものを上なき楽しみとする。

一月、二月、三月

一、社會生活。

食物、衣類、住宅に關した職業は、互に關係ある家庭と社會の兩方を表示してゐる。しかし家庭生活は各場合に背景をなしてゐて、近隣の種々の産業が家庭や家庭内の家族の種々な需要供給の必要に結びつけられて興味と成るのである。

なほ附加へて望ましい事は、近隣社會その全體に對しての準備と必要を力説する事である。其の近隣と社會には各種の家庭に生活する家族―それは子供達自身によつて代表されてゐる―があるその家々は大小の通に立ち竝んで居る。交通が運輸が安全にそして愉快になるように街燈、人道の設備がほどこさねなければならぬ。近隣の商業地には、社會の多く

の必要を充たす多くの製造場や賣店がある。交番や消防派出所は人民を守るように備へられてゐる。又通信の爲には郵便局や郵便配達があり、總ての子供の爲には學校があり、各種の家族が禮拜に集る爲に教會がある。

同じ通り或は同じ近隣に一軒づゝの家が立ち竝ぶと云ふ事から容易く小社會が成立つて發展して行くのである。是等の小社會は環境の特徴―即ち一軒づゝの家のみか又は一軒づゝの家と家の一割又は共同住宅―に従つて其小社會自らの特徴を生ずる。

家々が完成すれば社會に必要な其他の建物は自然と暗示せられる。此の小社會の賣店や製造販賣店は展開した窓で區別のつくように成てゐる。人道、街燈、郵便ポスト各種の乗物は必要に従て附加へられる。春先一日々々暖かになるにつれ公園や運動場は殊に興味多く意味深いものに成て来る。

子供達が種々の社會活動から模倣的に想像的にしてゐる遊びは其の社會の特徴を伴てゐる。それで彼等は賣る事や訪問する事や學校に行く事や教會へ行く事を遊とする又郵便配達、巡査、車ひき等の遊びもする又彼等は消防署に行て消防夫や消防機械

を見る。説明的な繪畫や模塑は是等異つた社會生活の興味ある重要な形象を理解する爲の一の表現である。遊びは簡單で未成であるけれども相互關係や互助といふ事について何事か學びつゝあり、また子供達一人々々がその一部分を成してゐる人生に於て充分に子供流儀を代表してゐる。

是等の主材に含まれた對象的相對的常置の事物と考の表現は數日或は數週間子供の興味と注意を持ち得る。

二、季節の興味

クリスマス當時は宿り木と常磐木のなくてはならないと云ふ事がひいて他の冬中葉を保つてゐる木々への注意をひく事になる。

冬にはもし周圍の情況が好都合になつてゐれば、子供達は雪人形や雪毬を造る事が出来る、そして雪人形が溶けるといふ事は雪が日光に遇て水に變化する事を示す。日の短かい冬を通じて子供達は床には入る前に見る事の出来る月や星へ注意をひかれる。

そして是等の天體に子供らしい興味と感ぜを言ひ表した詩や歌が一層天體と子供達とを親しみ深くする。

秋植えられた球根は地下室から教室へと持ち出されそこで子供達は種々と必要な世話をしまた植物の成長して行くのを見守る。

ヴァレンティン節の準備と計畫が目的と方法に好い問題を提供する。そして此日はハローウィンと同様學校の各級々の間に社交的氣分を増進させる爲に使はれる。ワシントン誕生紀念日は學校の上級生や又一般社會にとつて意義あり興味ある休日である。幼少の子供にはかような社會的な興味はわからないのでわけわからず反射的にたのしむ。彼等はワシントンが國家に對する奉仕の眞價を知るのには年少すぎる。しかし彼等はワシントンが偉い軍人であつた事と北米合衆國の一番初めの大統領であつたといふ事の説明で満足する。又幼少の子供達は其日のお祝ひに適當な室の裝飾をしたり、彼等自身の爲に兵隊帽を作たり軍人マーチにつれて旗行列をして歩いたり國歌をうたふのに合せたりまたそれを聞いたりして此の日を祝ふ。かようにしてジョージワシントンの名の下に愉快な正しい交りが結ばれる。普通用ひられる櫻の木の逸話の様などんなわかり易い事に依つても、國家的人物といふ事は幼少の子にとつては大きすぎる。

北の國の山ふところの雪にうもれた谷間の一部、そこには風もあたらず、朝日と夕日が照りました。まつしろな雪の中から、うす紫とうすとき色の可憐な花が咲きました。灰色の雲がひくく覆ふ日に峯にはまた新しい雪がつもりました。けれど、つゞましい花と花とのほゝ笑は、年越しにつもた山の雪を下の方から溶いてゆきます。

往年のほげしい、ほこりと風の吹きつける或道はたの電信柱の下に、ごみの様な雑草がありました。

通りをかいた土だらけの雪をつみ上げられたり、立ん坊の布圍になつたりしました。節分の晩にはお婆さんが、豆をそばへ埋て行きました。それから十日もたつた或日どこかの人が通りが、りに汚れた草をちつと見てゐましたが、微笑を含んで元氣よく立ち去りました。雑草の中には、泥もごみも事もなげに下萌えの色がのぞいてゐました。

早春！ 微笑と力！

童話には理解し得る教訓よりも、
感知し得るユウモア
を欲しい。
飯倉だよりより

會 告

○會費御拂ひ込みの節は御名前前は初め御入會の時の御名前と同じにして頂きたく存じます。例へば初め幼稚園にて御入會になり、後個人の御名前にて會費御拂込み等のことなき様に願上ます。整理上甚だ煩雜致しませぬから。

○會費未納は會計整理の上に甚だ困難致しませぬから確實に御納付下さいませ。向後萬一御不納久しきに亙ります場合は乍遺憾雜誌發送を停止致します。

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願ひます。

○萬一本誌不着等のことがございましたら直に御一報煩したう存じます。

本誌定價

一冊(郵税共)金貳拾五錢 六冊 前金壹圓五拾錢
十二冊 前金 參 圓 (郵券代用壹割増)

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

大正十二年二月十二日印刷
大正十二年二月十五日發行

東京市外中野町千光前三〇三〇番地
編輯兼發行者 倉 橋 惣 三

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印 刷 者 柴 山 則 常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印 刷 所 會社 杏 林 舍

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

◆書要必き可ふ備に園稚幼◆

東京帝國大學 文學士 上村福幸先生著

知能測定法

紙數八五〇頁 插畫凸版數十個入
背皮索引附函入美本
組トソイホ部全
錢拾參圓五金價正
錢七拾貳料送留書

兒科教育の要は兒童各自の知能に應じ且つ其の知能を最も有効に發進するに在り而して此知能の測定は頗る困難事にして時密微細の注意を有するものなり一度此の測定法を誤らば教育の效果一擲して最近の研究を一掃して形大なるへ得らるべし

一書を公にし統計圖表等を盛に掲げて其の説明を豊富ならしめ一般教育者の實地指導たらしめんことを期せり其如何に精細なる研究の決果たるや大方考へ得らるべし

(版再ち忽)

實愛兒の育て方と
驗病氣の手當

全 部 振 假 名 付
正 金 貳 圓 參 拾 錢
送 料 貳 拾 錢

日本は世界各國中小兒の死亡率が一番多いと云ふて居りますが。我國あると著者は申して居ります。竹内先生は十數の婦人は小供の病氣及治療に對する手當等の知識があまりになさすぎ、年間の實験から得て本書を現はされたので、まず子供に死亡は大部分母親や諸姉が斯道の知識に乏しいか故で、眞に子供を愛する御婦人方に御薦め致します

◆良友主筆 濱田廣介著 童話椋鳥の夢(文部省認定)

上 藤伯筆美本價金貳圓送料入葉入川
函入ボイソント組・琥珀全裝
正價金壹圓九拾錢
送料拾貳錢

◆法學士石井滿著 愛と女性を中心として

二十二年二月十五日印刷

明治三十四年一月二十八日第三種郵便物認可(毎月一回十五日發行)
幼 兒 教 育 第 二 十 三 卷 第 二 號
大正十二年二月十五日印刷
印刷所 合資會社 森 林 舍

東京市神田區 富永八番地
教育研究會 振五八一〇番座